

予算決算常任委員会委員長報告

去る3月6日の本会議において、予算決算常任委員会に付託されました案件について、3月6日に予算決算常任委員会、続く12日に予算決算常任委員会分科会、17日に予算決算常任委員会を開催し、慎重に審査いたしましたので、その経過と結果について御報告いたします。

本委員会に付託されました案件は、議案第1号ないし議案第17号の17議案であります。

まず、議案第12号ないし議案第17号の平成26年度各会計補正予算案について、執行部より説明を受け、慎重に審査を行いました。

議案第12号 平成26年度鹿嶋市一般会計補正予算(第11号)については、子宝手当支給事業の制度設計に至る経緯、結婚活動支援事業に係る婚活セミナーの内容、結婚活動支援事業を補正予算で計上した理由、幅広い年代を対象とした婚活支援に対する市の考え、母子保健推進事業に係る不妊治療費の助成内容、プレミアム付き商品券の発行時期及び県による上乘せ制度との関連、総合戦略推進事業に係る地方版総合戦略・人口ビジョン策定の委託内容、市民参加のまちづくり事業に係る土地賃借料の場所及び減額理由、公害対策経費に係る委託料の減額理由、観光施設管理費及び中学校施設管理費に係る光熱水費の減額理由、観光対策事業の財源組替えの内容、し尿処理施設大規模改修事業に係る汚泥処理委託料の減額理由などについて質疑がありました。

また、婚活セミナーの実施に当たってはコミュニケーション力を高める方策を取り入れるべき、不妊治療費助成事業を広く周知すべき、プレミアム付き商品券発行事業は早期に実施すべき、地方創生に係る地方版総合戦略・人口ビジョン策定委託は委託先を慎重に選定するとともに、市の独自性を生かした計画を策定すべき、し尿処理施設管理経費等の補正に大きな増額減額があるが、予算計上の際、詳細な検討をすべきなどの意見がありました。

議案第17号 平成26年度鹿島臨海都市計画下水道事業公共下水道特別会計補正予算(第4号)については、下水道資本費平準化債の減額に伴う財源対策に

ついて質疑がありました。

採決の結果、議案第12号ないし議案第17号については、全会一致をもって、いずれも必要かつ適正と認め、原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第1号ないし議案第11号の平成27年度各会計予算案について、執行部より予算概要及び主要事業の説明を受け、総括質疑を行いました。

議案第1号 平成27年度鹿嶋市一般会計予算については、子宝手当支給事業における第3子の定義と支給額の妥当性、平井認定こども園開園に伴う保育士等の確保状況、市の財政状況と今後の見通し、財政調整基金残高に対する市の考え、宮中地区賑わい創出事業に係る歴史資料館整備と公共施設等総合管理計画の整合性、地方創生関連事業に対する平成27年度以降の国庫支出金の見通し、固定資産税収入が減となる理由、鹿嶋市民が他市へふるさと納税を行った際の市税減収分に対する国からの財源措置の内容、高松幼稚園で飛散防止フィルム設置工事を実施する理由、鹿嶋神宮境内附郡家跡基準点測量を実施する経緯、時間外勤務に係る基本的な考え方、正職員比率に対する市の考え方、施設維持管理費の今後の見通し、映画「サクラ花」に対する市の関わりと考え方、市議会議員選挙事務経費の積算根拠などについて質疑がありました。

また、子宝手当支給事業の効果検証を実施すべき、財政の収支見通しは丁寧に行うべき、事業の取捨選択を徹底し財政調整基金の減に歯止めをかけるべき、公共施設等総合管理計画を早期に策定すべき、市長政策については進捗状況等を市民にわかりやすく周知すべき、ふるさと納税は積極的なPRを行うべき、公共施設維持管理費の今後の見通しを推計すべき、時間外勤務が常態化しないよう仕事の進め方を改めるべき、勤怠管理、各種手当の効率化を図るべき、公共施設維持管理におけるイニシャルコストとランニングコストを考慮した公共施設の老朽化対策を行うべき、広域合併も視野に入れて2025年問題を考えるべき、市道整備及び維持補修は積極的に行うべきなどの意見がありました。

総括質疑の後、「総務企画分科会」「文教民生分科会」「環境経済建設分科会」の3分科会に分担し、3月12日に、それぞれの分科会において、慎重に審査を行いました。

3月17日に採決に先立ち、各分科会委員長から、それぞれの分担事項について審査経過の報告を受けました。

採決の結果、議案第1号及び議案第4号については賛成多数をもって、また、議案第2号及び議案第3号、議案第5号ないし議案第11号については全会一致をもって、いずれも必要かつ適正と認め、原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上が、本委員会に付託されました案件についての、審査の経過と結果であります。

議員各位におかれましては、本委員会の決定に対し、御賛同を賜りますようお願い申し上げます。予算決算常任委員会委員長報告といたします。